

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

<b>自治体提示の地域課題名</b> (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	<b>自治体名</b>
	- (事務局用)	住民の防災活動を支援するオープンデータの蓄積及び活用の仕組み	高知県土佐町
<b>チームがつけたアイデア名</b> (公開) (注2)	井戸端会議なハザードマップ		

(注1) 地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

<b>チーム名</b> (公開)	土佐まちケア		
<b>チーム属性</b> (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2.	
<b>メンバー数</b> (公開)	4 名		
<b>代表者</b> (公開)	阿部李佳子		
<b>メンバー</b> (公開)	上田 大、竹島智佐、尾崎康隆		

#### **【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2022\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

**アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認** (○)

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

**<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>**

住民の防災活動が意識せずとも防災情報を蓄積できる住民が参加しやすい入り口とは  
土佐町の中にある厚いデータの既存資料のオープンデータ化と日頃の「井戸端会議」の中で「これはやばい」と「災害時にも使えるね」データを合わせて抜き出す仕組みを開発し、タイムリーに納得して行動できるデジタルマップとカレンダーを作成する。

**<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>** **<アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>**

**<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>**

#### 住民の防災活動を支援するオープンデータの蓄積及び活用の仕組み

SDGs 未来都市（2020年度）高知県土佐町は「SDGsと住民幸福度（well-being）に基づく”誰ひとり取り残されない”持続可能なまちづくり」の実現を目指しています。土佐町を、包摂的で安全かつレジリエントな地域としていきたいと考えています。

災害時にも”誰ひとり取り残されない”ためには、従来型の公助によるインフラ等整備に加えて、より住民ひとりひとりの目線に立って、地域の状況や災害時のリスク・課題を把握していくことが重要となっています。住民が参加しやすい入り口をつくりながら、住民の防災活動が意識せずとも防災情報の蓄積や充実にもつながっていく。そのような地域を、データやデザイン、デジタルの力で実現していく提案を求めています。

#### 「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するか

地域の人々が、井戸端会議をしているところにお邪魔し、生活にある1）これはやばいと2）その「対処行動」をとるための「災害時にもこれはつかえるね」という結果をデータ化し、地域防災計画として出力する。

計画行動は、もともとある生活の延長であるので、その1）、2）の状況が変化したら、更新するだけで済む。



#### 1. 土台マップづくり

過去5年の町民アンケート、ワークショップ、住民ヒアリングなどを再分析し、第7次土佐町振興計画進捗評価指標を元に、地域住民と町（国）のなかから、①その土地の知識・災害の言い伝え、②地域のネットワークと人間関係、④コミュニケーションの課題、⑤時間の使い方、態度のような、生活者視点の要素に言い換えて項目を整理する。

生活者の視点から、データ保有者のデータマネジメント（情報取得⇒可視化⇒処理・分析⇒データ提供・公開）の方法とそ

れに必要なルールを整理する。地域の保健機関や医療施設、最初の対応者との間の最適なデータ管理の流れを、災

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

害時のデータ管理のやり取りを効率化を念頭に入れて、地理空間的、時間的なあんしんな暮らしのデータカタログ作りを行う。（もとからある人間関係が確認できたら、意図的に場をつくってもよい。）

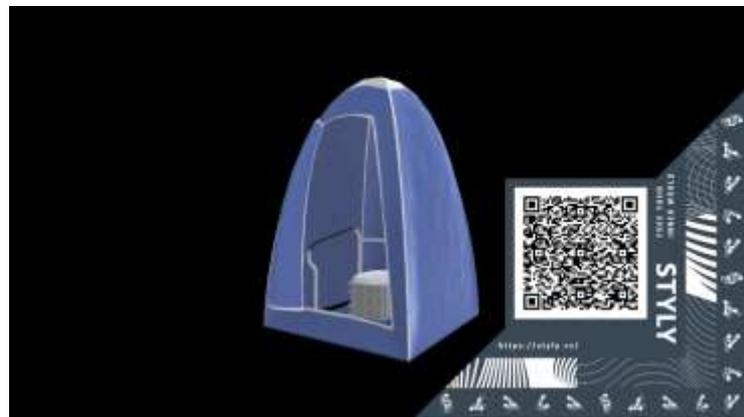
#### 2. マッピングの場と人づくり

訓練は全員ではなくむしろいつでもだれでものスタンプラリーに。旅行者：街歩きスタンプラリーで確認してもらおう +（消火栓、あめがふったら大変そう、これをおいてたらあんしんだね。昔はこんなことがあったのか。をAR化）



旅行者：街歩きスタンプラリー +（消火栓探し）

既存コミュニティ：道の駅土佐さめうら付近のコミュニティの バーベキューをはじめたい人々の「井戸端会議」からはじめる



（地元の人はいつもみすぎて気づかないデータを色んな人の目で見ると）

地域：消火栓マッピング ホースの長さ情報 大事

「災害時にもつかえるね」データ にするには やってみる 消火栓つかえるかな？「消すのは誰だ」

既存コミュニティ：道の駅土佐さめうら付近のコミュニティの バーベキューをはじめたい人々の「井戸端会議」からはじめる



## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

きっかけ

高知県の防災分野主導の地区防災計画、女性防災研修手伝う、と同時に、日頃から福祉をになう地域のボランティアとの対話をし通して気づいた、計画実践ギャップ。

防災研修と地区防災計画のワークショップはいつも絵に描いたもちにしかない。

防災意識がひくいから、と言って呼ばれていった地域活動を見ると「そもそも防災が日常化」している。と感じる  
なぜか。

土佐町強靱化に向けた基本目標（土佐町国土強靱化地域計画 2021）

いかなる自然災害等が発生しても

- 1 町民の生命が最大限守られる → **自助**> 共助> 公助
- 2 町及び地域社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持される 公助
- 3 町民の財産及び公共施設の被害が最小化される 公助
- 4 可能な限り迅速に町の復旧・復興が可能となる 公助> 共助> 自助
- 5 町の経済・社会・環境の調和に基づきながら、これらが実現される 共助> 公助

上記を達成するには公助だけでなく、「自助・共助」が非常に重要と言われている。

度重なる、健康福祉協議会のヒアリングから、「防災こそ福祉、健康づくりはまちづくり」といった使命感の直感的に理解され、長年地区防災に関わってきておられることがわかった。まさにソーシャル・キャピタルが涵養されてるまちだからこそ成し遂げられると考えられ、最も重要な災害リスク削減のリソースである。

ソーシャルキャピタル：健康の社会的決定要因や 2011 年の東日本大震災においても、避難所での生活再建や、健康問題の発生頻度に、元々の地域の持っていたソーシャル・キャピタルのレベルや、避難所で形成されたソーシャル・キャピタルのレベル関係していることが明らかになっている。その中での活動は、しかし、ソーシャルキャピタルは定量化・するのが非常に難しく、公衆衛生分野でも多様な方法分析はなされているものの、自治体間、地域間を評価できる行政統計にはなっていない。

「ソーシャルキャピタルの定量化をかんがえたとき」と市民からみた行政統計の落とし穴（焼き直し）



### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ>

<以下のように分けて書いていきます>

#### 1. **実現する主体**

#### 2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法

#### 3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

#### 1. **実現する主体**

人口減少の中山間地域での防災とは何かを真剣に考える「土佐町社会福祉協議会」  
土佐町という土地柄

現状：海に面する高知市をはじめ、南海トラフ対策が基本となる防災啓発が行われている。一方で、土佐町は、四国の中央部、吉野川の源流域にあり、その87%が山林で、平均年間降水量（1979年から2018年の平均）は2762.2mm/年で、平均最大日降水量は267.9mm/日となっている。また、過去の観測値をみると、2018年に最大日降水量510.5mm/日を記録しているほか、2014年492.0mm/日と集中的な豪雨が記録されている。

一定の出生数は継続でき、高知県内トップクラスの移住者数が社会増を押し上げている。既に高齢化率は45%を超えており、進学・就職を中心とした社会減は続いている。

解決：他の課題同様、将来にわたって地域住民が暮らし続けることができるよう、必要な生活・サービスの維持・確保、将来にわたって継続できるような「拠点」の形成上にあるものでなければならない。

#### 2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法

ヒト：三島・樺地区（何世帯何人）

モノ：みちの駅（BBQ場）、三島集会所 からスタートする。

「まちケア」を利用する。

カネ：第6次地域福祉活動計画「地域住民のつながりを高めていこう」の活動推進の一貫から始め、一定助成金を使用できる、定型的な業務の押し付け単年度主義の委託費は年度内に「使い切る」ことが求められるため、住民組織にとって、活動が「ノルマ化」、「やらされ感」は失敗のもとである。活動が手段的・定型的な業務に終わるのではなく、参加者の「目」や「耳」で集めたデータを地域の課題を解決するためにつなげる地域のための「データ共有活動」として広げる。

ソーシャルキャピタル（社会資本）：を探索する。

「信頼」とは、最も単純な設問で、「一般に人は信頼できますか？」>「はい」と答える人。

互酬性規範とは、「この地域や団体のメンバーではお互い様だと感じますか？」>「はい」と答えた人。

ネットワークとは社会的な交流の種類や頻度

### 3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

施策分野の設定 リスクシナリオを回避するために必要な施策分野として、土佐町振興計画の施策分野（教育・学び・子育て／スポーツ／文化・図書館・アート／自然環境と農畜林業／仕事・産業／愛（地域愛）／繋がり／安全安心な暮らし／人口減少／持続可能な行財政）を設定している。（土佐町国土強靱化地域計画 2021）

一方で、強靱化計画の中で以下のような項目を挙げている。土佐町 SDGs 推進会議分科会を設け、これを社会課題としてあげ、多様な意見に基づいて、個人の配慮を足算し、新たなコミュニティケアをデザインしてくことができるリーダーとしてリテラシーをあげ、産官学連携を超えたチームビルディングを行える参加者が共通した思考が持てることを目指した人材育成を企画する。地域の問題を解決するため、多様な人々の参加と透明なコミュニケーションのもと、地域の資源を有効に活用し、地域住民を巻き込み、住民のニーズに応じた適切な技術を活用できる研修を模索する。

・地域における自主防災活動等を通じ、住民ひとりひとりの意識を高め、未然防止を図るとともに、火事が発生した際の速やかな初期消火の体制づくりが必要  
・地域の消防活動を担う消防団の団員確保が必要

1-3 大雨や台風、異常気象等による河川の氾濫・堤防の決壊等が生じ、多数の死傷者が発生する事態  
・関係機関との連携のもと、河川改修や浚渫、維持管理を進めるとともに、流域治水の取組を推進していくことが必要

・浸水想定区域等の周知を図ることが必要  
・早期に安全な避難所等への避難を完了させるため、日頃から安全な避難経路や安否確認方法等の確認を進めることが必要

・児童や生徒の災害に対する防災教育等を充実し、防災意識の向上を図ることが必要